

第63回 The 63rd Annual Meeting of The Japanese Respiratory Society

日本呼吸器学会学術講演会



2023年 4月 30日 日 12:00 ~ 13:00

会場 第8会場 (東京国際フォーラム ホールD1)

COVID-19 感染蔓延下で増加する
過敏性肺炎・加湿器肺に
フォーカスをあてて

座長

河村 哲治 先生

姫路医療センター呼吸器内科

演者

坂本 晋 先生

東邦大学内科学講座呼吸器内科学分野 (大森)

本セミナーのご参加には本学術講演会への参加登録が必要です。
ライブ配信・オンデマンド配信はございません。
整理券の配布はありません。

共催

第63回日本呼吸器学会学術講演会

株式会社 シノテスト

COVID-19 感染蔓延下で増加する

過敏性肺炎・加湿器肺にフォーカスをあてて

東邦大学内科学講座呼吸器内科学分野（大森）

坂本 晋 先生

加湿器肺は、過敏性肺炎（HP）のまれなサブタイプであり、HPの約4%を占めると報告されている。しかしながら、その臨床像、放射線学および病理学的特徴は不明な点が多い。当院をはじめ、これまで報告されている加湿器肺の臨床的、放射線学的、病理組織学的特徴を日本における非線維性過敏性肺炎の代表的サブタイプである夏型過敏性肺炎と対比し、概説する。

加湿器肺の特徴を明らかにするために、全国の日本呼吸器学会の基幹施設、関連施設、計742施設に一次アンケートを送付し、過去10年間における加湿器肺と夏型過敏性肺炎の経験症例数と診断年月を質問した。この結果をもとに、両疾患の診断数とその年次推移、地域差などを検討した。

115施設から回答が得られ、過去10年で加湿器肺349例、夏型過敏性肺炎532例が診断されていた。加湿器肺については、超音波加湿器の普及に伴い増加傾向にあり、COVID-19の流行下でさらに増加していた。夏型過敏性肺炎については、2013年にトリコスポロン抗体が保険収載されて以降、診断数が増加していた。

一次アンケート調査で、二次調査に協力を表明した64施設に二次調査票を送付し、臨床像、検査値、画像、病理を収集し、現在解析をすすめている。